

平成30年 **3**月の大阪森林便り



今月の木の話

木は音を伝えにくい

- ・木材は音を適度に吸収するため、落ち着いた感じを与えます。
 - ・木材の吸音効果は、音を和らげる働きといってもいいでしょう。
 - ・木材は音を跳ね返す時に高い音を吸収してソフトな音にして跳ね返してくれるのです。
 - ・木材は音響装置に盛んに用いられています。
 - ・木材の吸音効果は厚さが増せばそれだけ高まり、最終的に厚さがある程度を超えると振動しなくなって、音を全く伝えなくなります。
- (日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋)



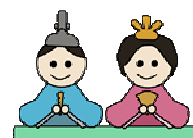
北米産丸太価格 2月積み横ばい 日本向け

- ・北米産丸太の2月積み対日輸出価格の交渉が前月と同価格で決着。7カ月ぶりに上昇が止まりました。
 - ・北米産丸太は1月積みまで6カ月連続で値上がりし、この間の上昇率は2割に達します。
- (2018年2月8日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



欧州産木材の集成材 梁用値上がり 柱用は横ばい

- ・欧州産木材を使った住宅用の集成材は、梁と柱で価格差が広がっています。
 - ・原料価格の値上がりを反映して梁に使う集成平角は、前月比2%上昇。昨年秋からの上昇幅は7%となりました。
 - ・柱に使う集成管柱はほぼ2年間横ばいが続きます。
- (2018年2月21日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





丸の内に 70 階木造ビル 住友林業、6000 億円投資

- ・住友林業は、2041 年までに都内に木造を主部材とした超高層ビルを建設する構想を発表。
- ・大きさは高さ 350m、地上 70 階建て。7 階建て以上の「木質」建築の施工計画は日本初。
- ・東京丸の内に建設することを想定。一部耐震補強材などには鉄骨材を活用。
- ・総工費は 6000 億円と試算。
- ・耐火部材の開発などが必要。3 時間耐火の認定が取れる木質部材の研究を社内で進めます。
- ・高層ビルの外周部には燃えにくい特性を持つサザンカなどの植栽を配置したり、水が流れるような仕組みを作ったりする計画もあります。
- ・4 年後をめどに高さ 70m、14 階建ての木造ビルを建てる施工計画を策定します。

(2018 年 2 月 9 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



木桶で醸す未来 古くて新しい伝統 絶やさない

- ・木桶は戦後、ホーローやステンレスのタンクに取って代わられました。
- ・木桶仕込みで怖いのは、雑菌で酒が腐る「腐造」です。木桶は表面に無数の菌がすみつき、温度管理も難しくなります。
- ・タンクなら洗剤で 1 時間足らずの洗浄作業も、何度も湯を張っては捨て、手作業で磨く気尾根の場合は 1 日で終わりません。
- ・木桶に住む乳酸菌が仕込み中に活動してうまみが増強されているのかもしれません。
- ・杉に含まれるテルペンなどの香り成分やタンニン、ポリフェノールなどが酒に溶け出し、たんぱく質などと結合することで複雑な風味に仕上がる可能性があります。
- ・1 本の釘も使わず、削った杉と竹のたがだけで 100 年持つ大桶を組める桶屋は現在、国内に 1 軒。木桶自体が手に入らなくなる恐れ。

(2018 年 2 月 11 日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





木の上に遊び場 森林再生の一手

大阪の冒険の森、岡山に新設 5年後に30施設目指す

・スタートアップ企業の「冒険の森」は、2018年7月に岡山県真庭市で森林を活用したアスレチック施設を開設します。地域活性化と森林の維持管理を両立させるものです。

・立木周りにはしごや足場など最低限の設備を整備し、森林をそのまま活用するのが特長。

・森林全体の保全計画から設計、施設づくり、運営を一貫して手掛けるため、森林荒廃に悩む自治体からの引き合いが増えています。

・人口70万人以上の都市から車で1時間程度であれば、年間約17000人の集客効果と約4700万円の売上高を見込めるといいます。

(2018年2月16日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



カナダ産製材品、最高値 住宅用、日本向け2割上昇

山火事や米の課税響く

・ツーバイフォー住宅に使うカナダ産製材品の日本向け価格が高騰しています。1年間で2割上昇し、過去最高値になりました。

・SPF（トウヒ・マツ・モミ類）の2x4製材品の価格は、前年同期に比べ33%高。

・価格上昇の背景にあるのは、米国での旺盛な住宅需要です。

・供給面では2017年夏にカナダの主要産地での大規模な山火事の影響が尾を引いています。

・米国によるカナダ産製材品への課税も一因です。

・建設経済研究所は、2018年度の新設住宅着工戸数は2017年度比0.1%増の965000戸を見込みます。

(2018年2月17日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





針葉樹合板、2%値上げ セイホク、3月分 原木価格上昇で

- ・国産合板最大手のセイホクは、国産針葉樹合板の出荷価格を3月契約分から値上げ。厚さ12ミリ、24ミリを2%上げます。
- ・原木のスギやカラマツといった原木の調達価格が上昇しているのが理由です。
- ・接着剤の価格が上がった分も転嫁します。

(2018年2月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



森林保全・整備に信託 三井住友信託が商品開発

- ・三井住友信託銀行は森林の保全や整備に向け、信託の仕組みを取り入れた商品開発に乗り出します。

(2018年2月27日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



型枠用合板、春先に品薄? 減産や五輪需要で懸念

- ・型枠用合板が春先に欠品するとの懸念。東南アジアの合板メーカーの生産量が細る一方、春以降に東京五輪関連施設の工事が本格化しそうなためです。

(2018年2月28日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

